

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：増加傾向にあるパレスチナ人のイスラエル人攻撃件数

12月22日、テルアビブ近郊を走る市内バスに対する爆弾テロが発生した。乗客が不審なバッグに気づき、運転手が乗客を避難させた後に爆発したため負傷者はいない。イスラエルでは犯罪がらみの爆発事件も発生しているが、今回の事件がパレスチナ人による爆弾テロである場合、イスラエル国内では、2012年11月21日にテルアビブ市内の国防省付近で発生した爆弾テロ事件以来となる。前回の事件では、警察はイスラエル・アラブ（イスラエル国籍を持つパレスチナ人）の男性を逮捕している。ガザのハマースとイスラーム聖戦は12月22日の攻撃を賞賛した。同事件での犯行声明は、まだ出されていない。

イスラエル国内での爆弾テロは、毎年数回発生している。中東調査会のデータでは、2006年2回、2007年、2008年、2009年は1回、2010年はゼロで、2011年は2回発生している。イスラエル国内での自爆テロが激増したのは、2000年秋から約4年間（第二次インティファダの期間）で、イスラエル側の数字では、イスラエル人1083人（市民741人、兵士・治安関係者342人）が死亡している。市民の死者の大部分は爆弾テロの犠牲者と推定される。ちなみに同時期のパレスチナ人の死者は6371人。

12月24日、ガザとの境界フェンスを補修していたイスラエル人が、ガザ側からの銃撃を受け死亡した。ガザ境界付近でイスラエル人の死者がでたのは約1年ぶり。イスラエル軍は、報復としてガザ内の6標的に空爆10回を行ったと報道されている。12月25日のYnetnewsサイトは、イスラエル治安当局者情報として、イスラエル人攻撃事件は2013年7月から増加傾向にあると報道した。事件数は、7月82件、9月99件、9月133件、10月136件、11月167件となった。12月2日の米ワシントン・ポスト紙は、イスラエルとパレスチナの専門家の分析として、パレスチナ側で個人による無計画な暴力事件が増加していると報道した。パレスチナ人が個人的に突発的な暴力行使に出る傾向が増加しているとすれば要注意である。個人による唐突な暴力行使は、自暴自棄的で予測不能であり、イスラエル軍は事前の対抗措置を取ることが困難になる。それ以上に懸念されるのは、個人が暴力に走るのは、中東和平交渉の先行きに期待が持てず、またパレスチナの既存の組織が、住民の不満や怒りを汲み取れず、パレスチナ個々人の間に絶望感が増大していることを強く示唆している点である。

(中島主席研究員)